

令和7年度 調査研究

OJTの活性化に関する研究

一校内における教職員の主体的な学びを支えるために一

山形県教育センター

OJTの活性化に関する研究 担当者会

研修課 :主任指導主事 佐藤高志(総括) 指導主事 斎藤真知子(副主担当)大山伊織 柏倉大樹 木戸恵美(主担当)

研究・情報課 :指導主事 安孫子力也 徳田和樹 武田桂輔 芳賀司

特別支援教育課:指導主事 本間みゆき

教育相談課 :課長 安藤紀子 指導主事 齋藤昌枝

本研究においては、

教職員の「OJT」を、

校内における学び・学び合い

と捉えて研究してまいりました。

もくじ

- 01 研究のねらい
- 02 研究の経過
- 03 研究の視点
- 04 教師の学びや学び合いを促す指導主事のかかわり
- 05 「学びカフェ」等から OJTの在り方を探る
- 06 研究のまとめ
- 07 今後の展望

01 研究のねらい

大テーマである「ウェルビーイングの実現に向かう学校を支援する」手立ての一つとして、**教師の学び合いが活性化する条件や方法などを見いだし、教師の学び合う文化の醸成に寄与する。**

02 研究の経過

1年次(令和5年度)のまとめ

学校におけるOJTの方向性

- ・ 学校（職場）の中で
- ・ 学校教育目標（どんな子どもを育てるか）のもと
- ・ 自主的・主体的に
- ・ 協働しながら互いに学び取っていく場・機会・時間

OJTを活性化させるための条件

- ・ 目的意識の共有と校長先生のリーダーシップ
- ・ 時間の確保・心身のゆとり
- ・ 教職員同士の関係性・同僚性
- ・ 語り合う場

2年次(令和6年度)のまとめ

山形県教育センターが学校のOJTの活性化のために
できることは？

研修講座・出前サポート・学びカフェの充実
指導主事の関わり方のアップデート

03 研究の視点

2年間の研究を受けて

観の転換 ※研修観 学習観 仕事・組織観 など

「指導助言」を例とする一方向性の関係から、現場の葛藤を共有し、共に解決策を探究するスタイルへ



教師の学びや学び合いを促す指導主事のかかわり

- ・ 先生方の探究サイクルを回す問いの引き出し方や伴走の在り方のアップデート
- ・ 先生方一人一人のワクワクする学びを支えたい！
- ・ 葛藤と内省からの考察



「学びカフェ」等から OJTの在り方を探る

- ・ 気軽なやりとりのできる関係性の構築が、OJT活性化の鍵となるのではないか。
- ・ 日常の何気ないやりとりも重要な学びの機会になり得るのではないか

第7次山形県教育振興計画と照らして方向性を確認しながら分析する。

第7次山形県教育振興計画

〈県民みんなでチャレンジ〉4つの重点的取組み



1. 体験

「なんとかなる！」
と前向きに挑戦できる
楽観性。



2. 探究

「なんで？」を大切に、
「やってみよう！」
と思える自己
実現と成長。



3. 尊重

「あなたらしく！」、
自分軸を持って
主役になれる
自律性。



4. 協働

「ありがとう！」と
伝え合える感謝と
繋がりのある関係。

04 教師の学びや学び合いを促す指導主事のかかわり

04-1 指導主事の役割変革

共に探究する伴走者へ

- ✓ 学びの伴走者：先生方の自律的な学びに寄り添い、ともに探究する。
- ✓ 気軽な双方向のやりとり：先生方との対話により目的や進捗を共有し、オンラインでの打ち合わせ等を活用して柔軟にやり取りする。
- ✓ 探究サイクルへのアプローチ：やり取りの中での「問い」を通して、先生方の学びの深化と自己選択を促す。
- ✓ 学びに向かう雰囲気づくり：先生方が考えたことを気軽に共有できる場づくりをする。



04 教師の学びや学び合いを促す指導主事のかかわり

04-2 継続型サポート

「学び合う学校文化」の醸成 へのかかわり

指導主事の継続的なかかわりが、学校の探究過程の充実につながった。

※令和7年度継続型サポート実施校職員対象アンケートより

事後研での対話が、より具体的な子どもの実態を踏まえたものになったことで、正解を求めるのではなく、場面に応じた対応をするための話し合いになっていった。

よりよい授業づくりや、先進的な実践研究などに関心を持ち、自主研修をする先生方が増えた。

「子どもの力を信じる」意識をもち、「考えているのかな。」と思ってもしばらく待つようになってきた。

対話だけにかかわらず、課題を提示した時の児童の反応、課題解決の児童の様子、終末の児童の様子など、前よりよく見ようとするようになりました。

- ✓ 指導主事が先生方の思い・考えを尊重し「共に考える」姿勢でかかわることが、先生方の新しい気づきと探究意欲の向上につながった。
- ✓ 先生方の探究過程に位置付くようなかかわりを吟味する必要がある。



04 教師の学びや学び合いを促す指導主事のかかわり

04-3 指導主事向け対話パッケージ体験会への参加

講師 福島創太 氏 一般社団法人ティーチャーズ・イニシアティブ

日時 令和8年2月3日(火) 場所 山形県教育センターにて

学びと変容(参加者の感想より)

思考が動く研修づくりへの意欲の向上

業務がより主体的で創造的な活動として捉えられるようアップデート

 **技法レベル (精緻化)** : 問いの立て方、枠組み (班編成等) の重要性を改めて感じた。

グランドルールは、初めての人には丁寧に説明したほうが良い。

 **概念レベル (本質理解)** : 「沈黙」や「淀み」も大切な思考のプロセスであるということ。

「話を聴く」ことも学びであり、話していないから消極的だとはいえない。

 **存在レベル (在り方)** : 指導主事だからこそできることがあると感じた。「～ねばならない」からの脱却。

指導主事は先生方の学びの伴走者であり、研修デザイナーである。

05 「学びカフェ」等から OJTの在り方を探る

05-1「学びカフェ」

山形大学 「新たな教師の学び」を実現するための「やまがた学校改革ネットワーク」の構築

※令和4年度 文部科学省教員研修の高度化に資するモデル開発事業

令和5年10月～ 研修環境デザイン「学びカフェ」の導入

- ・拠点校 7校 (小学校 4校 義務教育学校 1校 高校 1校)
- ・山形大学
- ・山形県教育センター



「学びカフェ」の主な目的 (山形大学「新たな教師の学び」を実現するための「やまがた学校改革ネットワーク」の構築より)

- ・校外の研修成果の学校組織への展開を、学校組織内の対話による協働的な学びとして実現
- ・教師と学校管理職等との「対話と奨励」の基盤づくりの実現

→対話と学校内教職員コミュニティの形成・活性化を目指す

05 「学びカフェ」等から OJTの在り方を探る

05-1「学びカフェ」

05-1-1 「学びカフェ」の実施・運営

令和7年度実施回数 (令和8年3月末現在)

所内学びカフェ 25回

ふらっと学びカフェ 21回 合計 46回

(月別 4月6回 5月5回 6月9回 7月5回 8月2回 9月1回

10月2回 11月3回 12月4回 1月4回 2月1回 3月3回)

令和7年度参加人数(述べ人数)

所内学びカフェ 364人

ふらっと学びカフェ 261人 合計 625人

1回の所要時間 30分～60分 平均 39分



所内学びカフェの様子



ふらっと学びカフェの様子

05-1「学びカフェ」

所内学びカフェ

対象：山形県教育センター職員

目的：対話を通して情報を共有したり、
アイデアを発散したりする。

参加方法：希望者（出入り自由）

テーマ(例)：初任研の教科指導
仕事の見える化
5年経験者研修
学び続ける教師を目指して
協働的な学び
業務の振り返り
研修報告 など



05-1「学びカフェ」

ふらっと学びカフェ

対象：研修で来所した先生方

目的：
・対話を通して実践や悩みを共有し、多角的な視点を得る。
・「学びカフェ」を体験し、自身の学校でも取り組んでみようとする。

参加方法：希望者（出入り自由）

テーマ(例)：夏休みどうする？
明日の授業
教員になって心動かされたこと
5年間どうだった？
職員室は校種でどう違う？
地域連携 など



05 「学びカフェ」等から OJTの在り方を探る

05-1「学びカフェ」

05-1-1 「学びカフェ」の実施・運営

○参加者の声

- ・参加者の学びを深めることをねらいとする場合と、多様な意見をもらうことで主催者の学びや気づきが深まる場合がある。
- ・話しやすく堅苦しくない雰囲気はよい。たくさん出た意見を集約するのが難しい。
- ・ふらっと学びカフェでは、普段接点のない先生同士でも自由な雰囲気での意見交換や情報交換がなされていた。

○運営してみた感想

- ・出入り自由であることから、参加者は各自のタイミングで訪れ、リラックスした雰囲気での対話を重ねていた。
- ・令和7年度の新たな取り組みとして、学びカフェ参加者をつなぐために、あらかじめ問いを書き込んだ模造紙を準備して会場内に寄せ書きコーナーを設けた。対話のきっかけとなり、気軽な意見交換がさなれ、会話が弾む場面が見られた。



ふらっと学びカフェの様子

05 「学びカフェ」等から OJTの在り方を探る

05-1-2 「学びカフェ」の現状

アンケートによる実態調査

対象 ・ 「学びカフェ」拠点校(※) 教員

・ 山形県教育センター職員

実施時期 令和7年11月上旬

調査内容 ・ 学びカフェの活用で得たこと

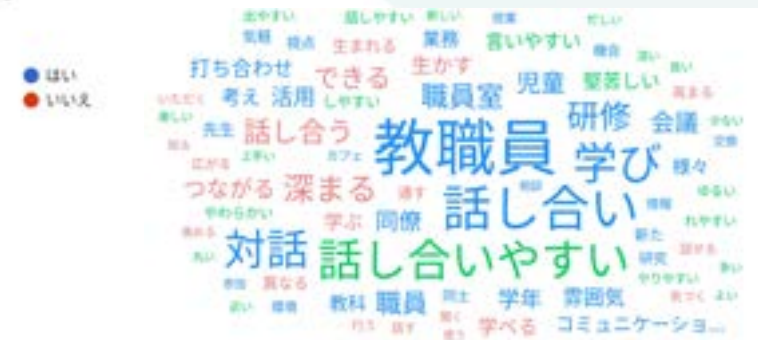
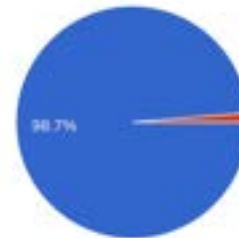
・ 学びカフェ以外の日常的な対話が業務遂行にもたらした変化

・ 日常の業務で同僚から学びを得た場面

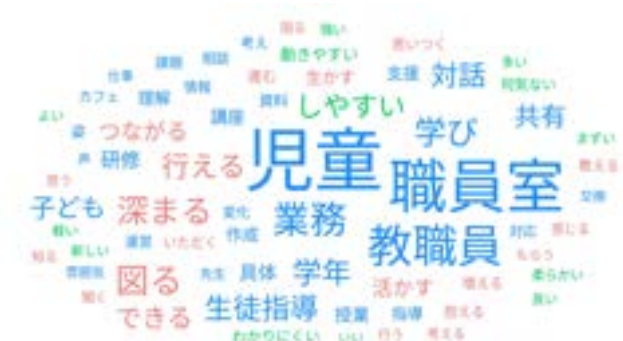
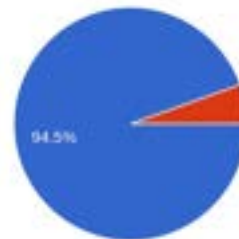
(※) 令和4年度 文部科学省教員研修の高度化に資するモデル開発事業山形大学「新たな教師の学び」を実現するための「やまがた学校改革ネットワーク」の構築
研修デザイン「学びカフェ」の導入における拠点校

心理的安全性の醸成

「学びカフェ」を活用したことで得たことはありますか。
77件の回答



学びカフェ以外での教職員との日常的な対話...結果、あなたの業務遂行に変化がありましたか。
73件の回答



05 「学びカフェ」等から OJTの在り方を探る

05-1-3 「学びカフェ」アンケートと7教振の関連の分析

| 分類（幸せの因子） | 分析：学びカフェの役割 | 具体的な記述（抜粋） |
|----------------|--------------|------------------------|
| 1. 体験（なんとかなる!） | 不安軽減とリフレーミング | 「不安が軽減された」「心が軽くなった」 |
| 2. 探究（やってみよう!） | 自己効力感と成長の実感 | 「自らの価値観が揺れ動くような学びを創出」 |
| 3. 尊重（あなたらしく!） | 自己開示と多様性の受容 | 「職員室とは異なる雰囲気、柔らかい語り合い」 |
| 4. 協働（ありがとう!） | 関係性の質の向上 | 「他学年の先生と話をして刺激になる」 |

教職員の「日常的なかかわり（学びカフェを含む）」のよさ

- ♥ **心の土台を整える場**：気軽に話せる。やわらかい雰囲気での気軽な対話が、精神的な余裕を生み出す。
- 🍵 **心理的安全性の向上**：物理的環境の工夫からも効果が得られる。（例 お茶 椅子や机の配置や距離 ホワイトボードなど）
- ★ **安心から本音へ**：やわらかい雰囲気での気軽な対話が、困難な状況（生徒指導や多忙）を前向きに捉え直す場になる。
- 🔄 **つながりから意欲へ**：孤立を防ぎ、同僚性の向上を促す。

05 「学びカフェ」等から OJTの在り方を探る

05-2 教職員が日常的なかかわりから学びを得た場面の例(「学びカフェ」アンケートより)

資料の説明にかかる事前準備
(意図、根拠、実態など)

保護者面談に記録者として同席

PCや一人一台端末の使い方

児童生徒への声かけ

校外学習

書類作成

隙間時間で行事の打ち合わせ

掲示物の作り方

評価のポイント

縦割り班活動

提出物の期限や日程の確認

先輩教員が後輩教員にアドバイスのしている場面

保護者対応

授業実践についての質問

業務のメモを取る姿

ちょっとした時間の短時間の1対1の対話

違う校種の先生と意見交換

業務支援員さんをお願いできること

児童生徒への聞き取り

地道に努力している子どもをしっかり認めることや注意されがちなお子への寄り添い方

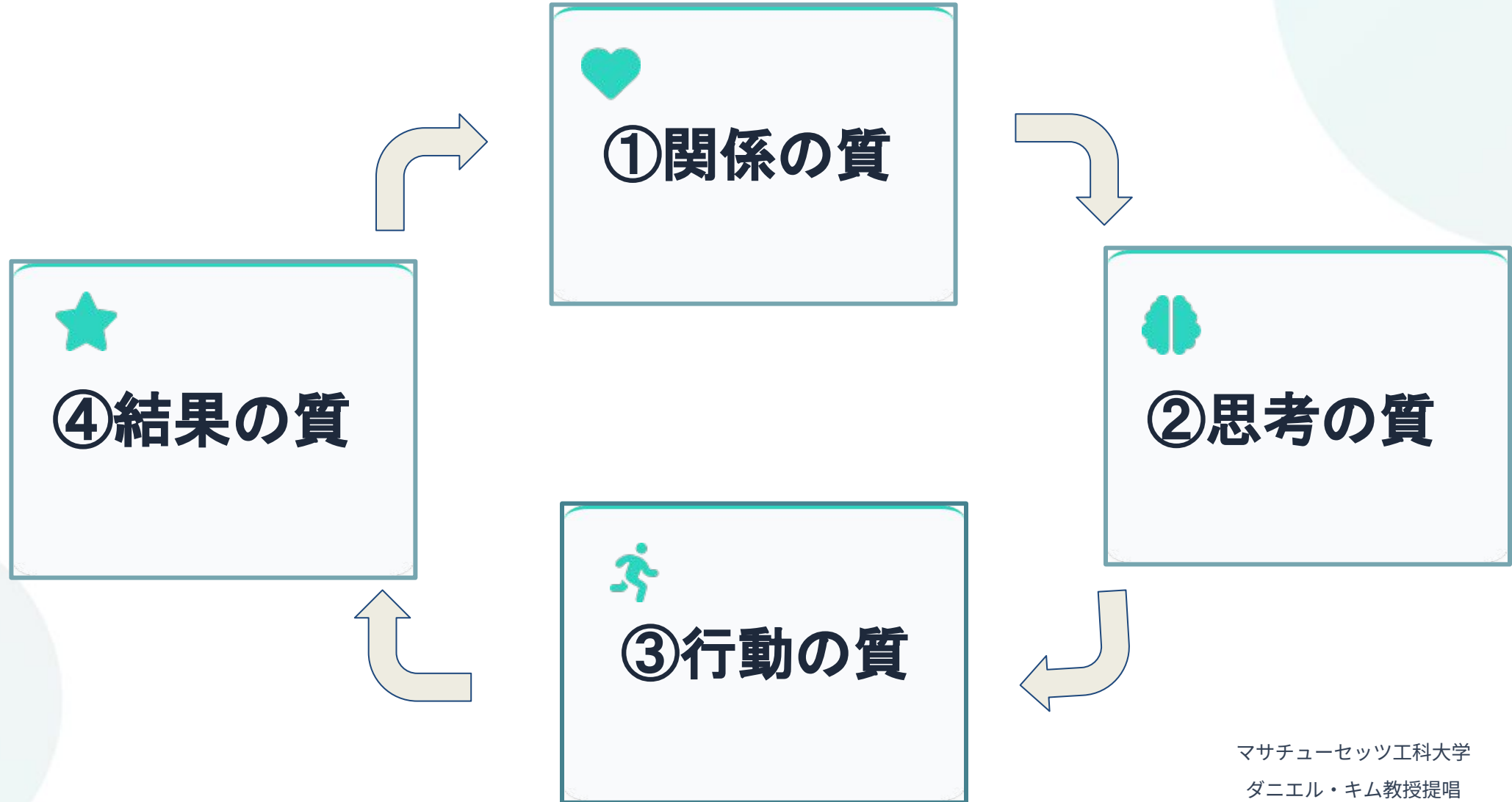
印刷室で印刷を待つ時間の情報交換

子どもの特定の発言に至ったストーリーの共有

研修の企画や内容

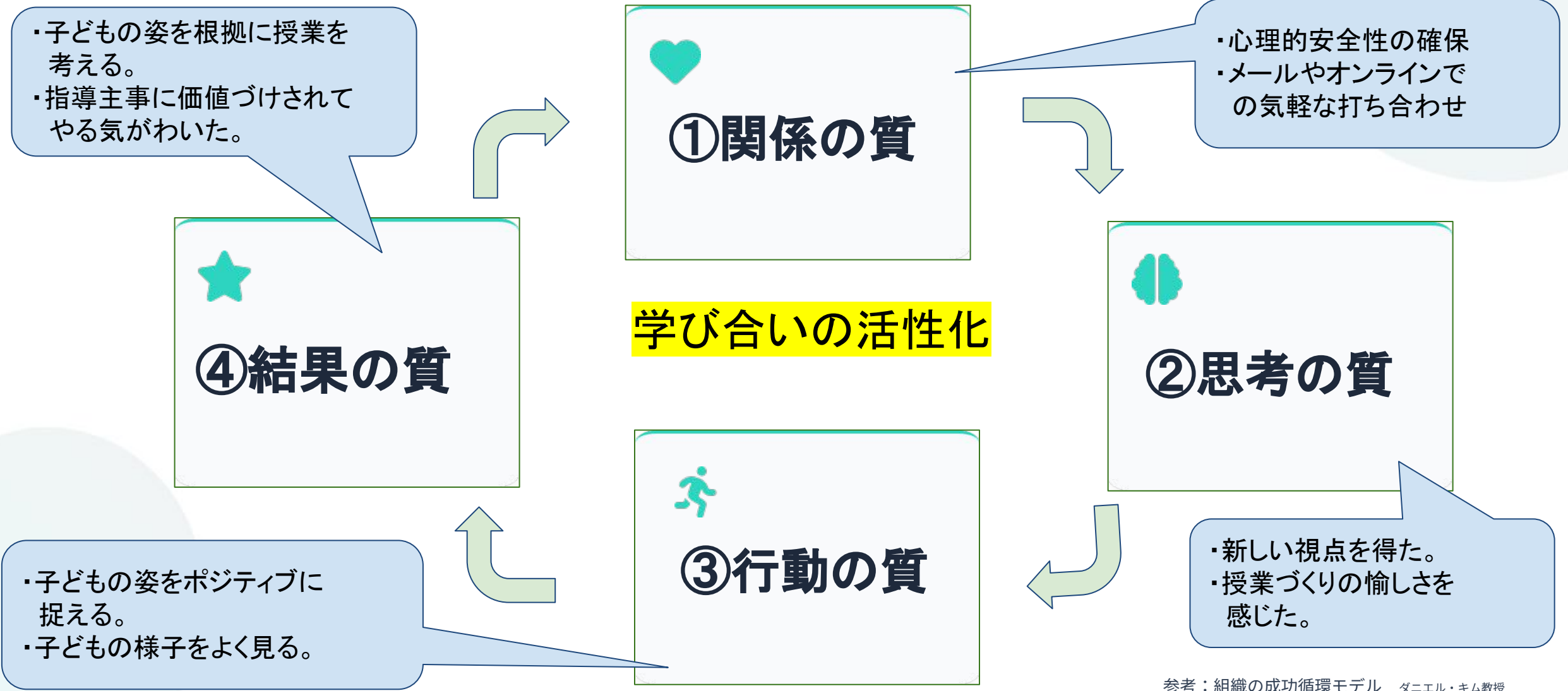
06 研究のまとめ

組織の成功循環モデル



「組織の成功循環モデル」×「指導主事のかかわり」

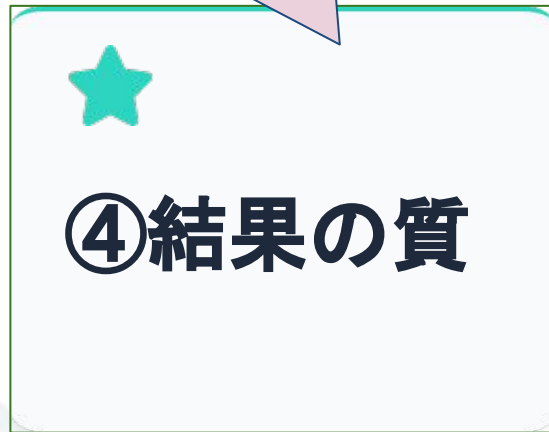
令和7年度継続型サポート実施校職員対象アンケートより



「組織の成功循環モデル」×「学びカフェ」

「学びカフェ」アンケートより

- ・自分なりの意図や考えを持てるようになった。
- ・風通しのいい職員
- ・目標の明確化



- ・チームとして助け合う。
- ・自分のクラスでも試してみる。



- ・同僚との会話が増える。
- ・情報共有が盛んになる。
- ・同僚の得意なことが分かる。

学校の活性化

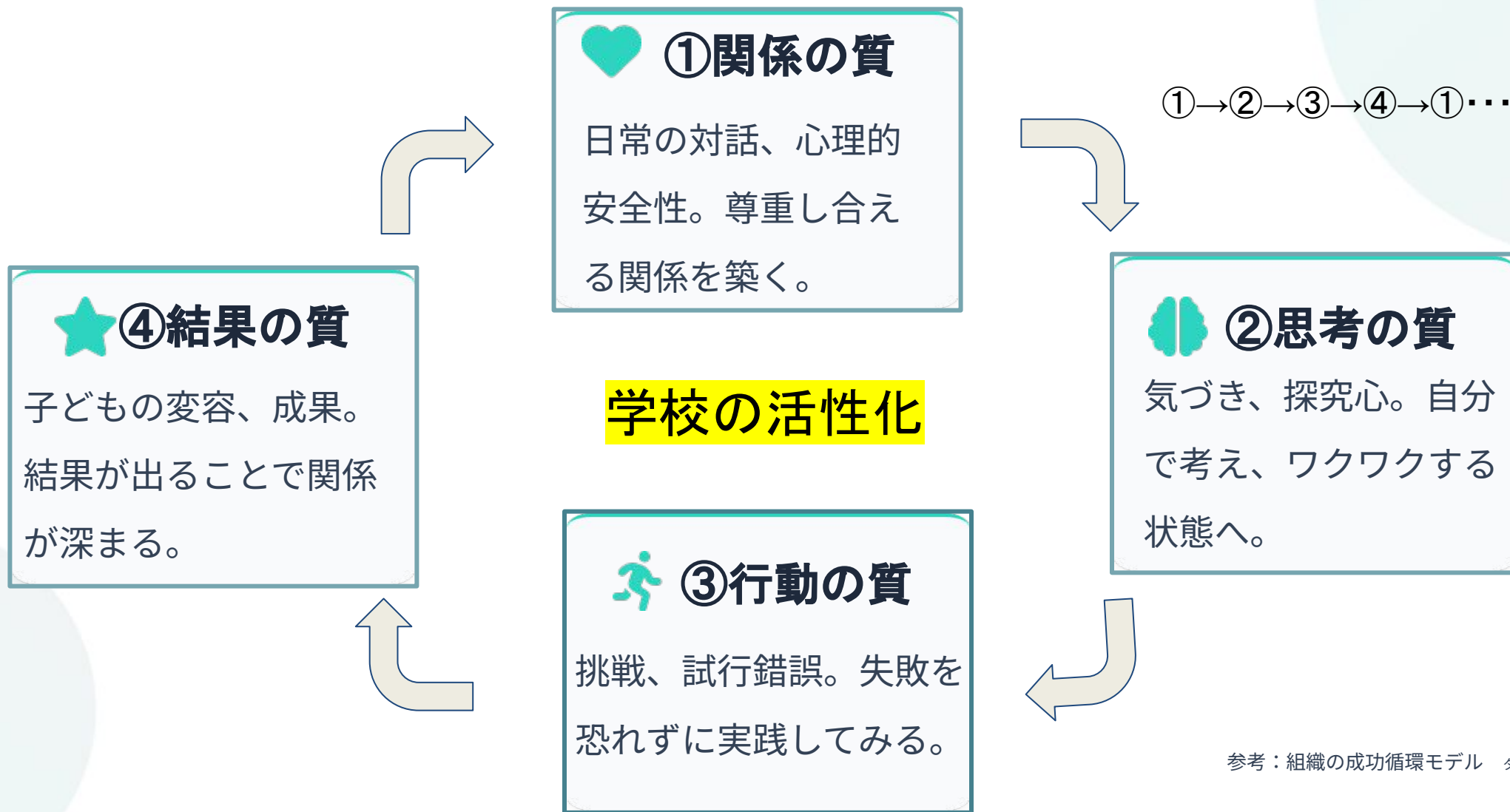


- ・自分とは違う意見に刺激を受ける。
- ・失敗を許容することが大切だと思うようになった。



06 研究のまとめ

学校のOJTを活性化させる「組織の成功循環モデル」の好循環



06 研究のまとめ



- ✔ 教職員の「関係の質」の向上が、探究的な学びを生み出し、学校におけるOJTの活性化につながる。
- ✔ 先生方と指導主事のような「外部の視点」をもつ者が課題意識を共有し、双方向にやり取りをすることは、日々の実践の中に深い学びの循環を生み出すきっかけとなり得る。



学校のOJTの活性化は、学校のウェルビーイングの実現および第7次山形県教育振興計画の目標の実現の有効な手立てとなる。

07 今後の展望

学校のOJTの活性化に向けて

-  **個別最適な支援**：学校や先生方の課題に合わせた研修講座や継続型・訪問・来所サポートでの伴走支援
-  **学び合う文化の普及**：教職員の「日常的なかかわり」のよさを県内全域の学校に研修講座や継続型・訪問・来所サポートで提案。

ご視聴ありがとうございました

参考文献

『先生たちのフロネーシス』千々布敏弥(2025年 教育開発研究所)

『学習する組織—システム思考で未来を創造する—』ピーター・M・センゲ(2011年 英治出版)

『探求のススメ』宮地勘司(2021年 教育開発研究所)

『日本教育令和7年11月号』(2025年 日本教育会)

『VIEW next 2025年4月号』(2025年 株式会社ベネッセコーポレーション)

第7次山形県教育振興計画

研究協力

山形大学「新たな教師の学び」を実現するための「やまがた学校改革ネットワーク」の構築による環境デザイン「学びカフェ」拠点校

令和7年度山形県教育センター継続型サポート実施校